

昭和三十年代の灯

街並地回作製着々進む

昭和三十年代の街並の地図を見て懐かしい昔の苦前町の姿を語り合ってみようという趣意を込めて、今着々と地図づくりの作業を進めております。



昭和三十年代といえは、いわゆる高度経済成長期前の苦前町。ニシンが衰退したとはいえ、人口は約二万人を数え、町は活気にあふれていた。

苦前と古丹別の市街地には、雑貨、食料品、酒屋などの商店や旅館、飲食店、理容、銭湯、映画館や劇場などがひしめき合い、三十年前半には花街もあったという。

この賑やかだった街並を、町史などの資料分析や聞き取り調査、会員の記憶を引き出しながら、地図におおとして再現し、現在の町の姿に重ねて時代の支遷を明らかにするもの。

現在、地図の製作にあたっては、苦前グループと古丹別グループに分かれて作業を進めており、すがより当時の様子に近い地図を作りたいと時間をかけて着々と作業を進めております。

作業は初めての試みですが、歴史の一片が後世に残るというには、郷土史研究会にこそ有意義な事業だと思っております。来年の三月までを完成目標に、会員一同がんばっております。

『ふるさとぐるっと散歩道』

町の歴史を振り返るウォーキングに協力

十月三日、町公民館が主催する成人講座「ふるさとぐるっと散歩道」に歴史の探訪案内人として、郷土史研究会から鎌田信夫と野澤祐美会員が同行しました。



この日は二十一名が参加、時折雨が降る中、苦前と下町(港)をぐるっとウォーキングし、会話をしながら楽しんだ。

苦前町は130歳、わたしたちの苦前町は来年で開基130年を迎えます。明治13年に苦前に戸長役場が置かれた年を、開基とし、昭和55年に開基100年を迎え盛大な記念行事などが催されました。来年の130年の節目の年はどんなことが行われるのでしょうか。

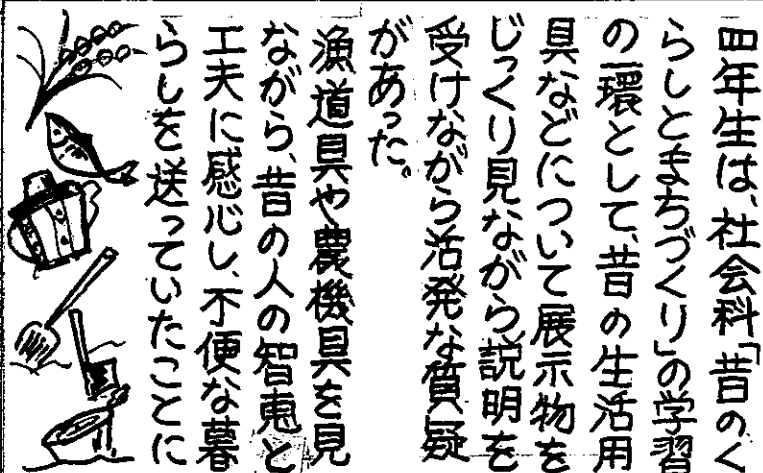
郷土史研究会では、今後もこうした行事や事業、小中学校の授業などに積極的に協力してまいりますので、どうぞご要請ください。



「昔の人の苦勞がわかった」「お米づくりってたいへんだね」

苦前小児童が資料館で学習

十月二十八日、苦前小学校の二年生と四年生が郷土資料館で学社融合事業があり、郷土史研究会から野澤会員が説明員として協力した。



四年生は、「社会科」「昔のくらし」ときちんぐりの学習の環として、昔の生活用具などについて展示物をじっくり見ながら説明を受けながら活発な質問があった。

漁道具や農機具を見ながら、昔の人の知恵と工夫に感心し、不便な暮らしを送っていたことに

今の自分達の生活を照らし合わせるような素振りを見せていた。

郷土資料館 入館者は3,145人

五月二日のオープンから十月三十一日に閉館した郷土資料館の入館者は三、四五人で昨年より三一人多かった。この内道外は三九四人、遠い人は九州熊本県からであった。

管理員から、紋別から来た人がビデオを親戚から帰したが、財布を置き忘れたのに気づきあわてて電話確認したところそのままだった。

郷土史研究会に

入会を

郷土史研究会は今まで副読本や紙芝居、歴史マップづくり、学社融合支援、放談会での研究会など、和やかに楽しく事業を遂行してまいりました。

郷土史研究会に

入会を

おりますので、一人でも多くの方が入会をお願いします。

現在、会員は一六名です。若干高齢化してきて

迎える新しい年は皆様のご協力、健康やかな年でありますように祈念申し上げます。